

尊敬しているのか、
尊敬している「つもり」なのか。

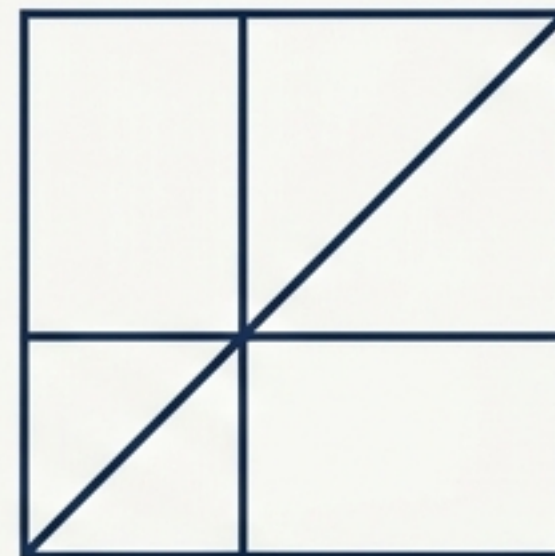
「尊敬しています」の重みは、その後の一球で決まる。



心の中 (嘘偽りのない本心)

「すごいコーチだ」
「教えてもらえてありがたい」と、
本気で思っている。

悪気はない。
本人は嘘をついている
つもりなどない。
これが気づきにくい「つもり」の罠。



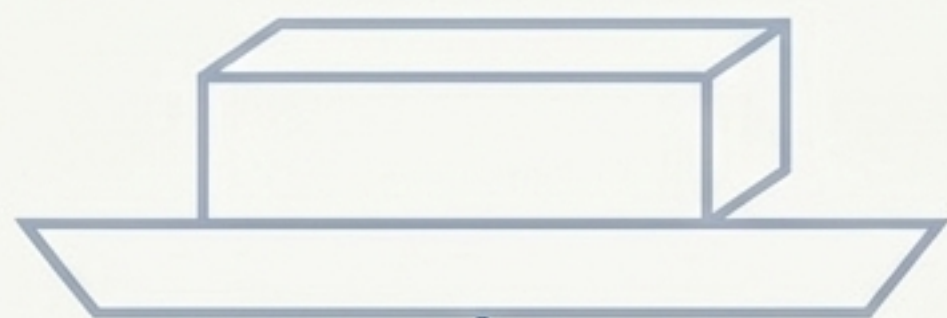
コートの上 (実際の行動)

「やり方を変えよう」と言われても、
慣れたプレーを続ける。
気持ちよく決めることを優先する。

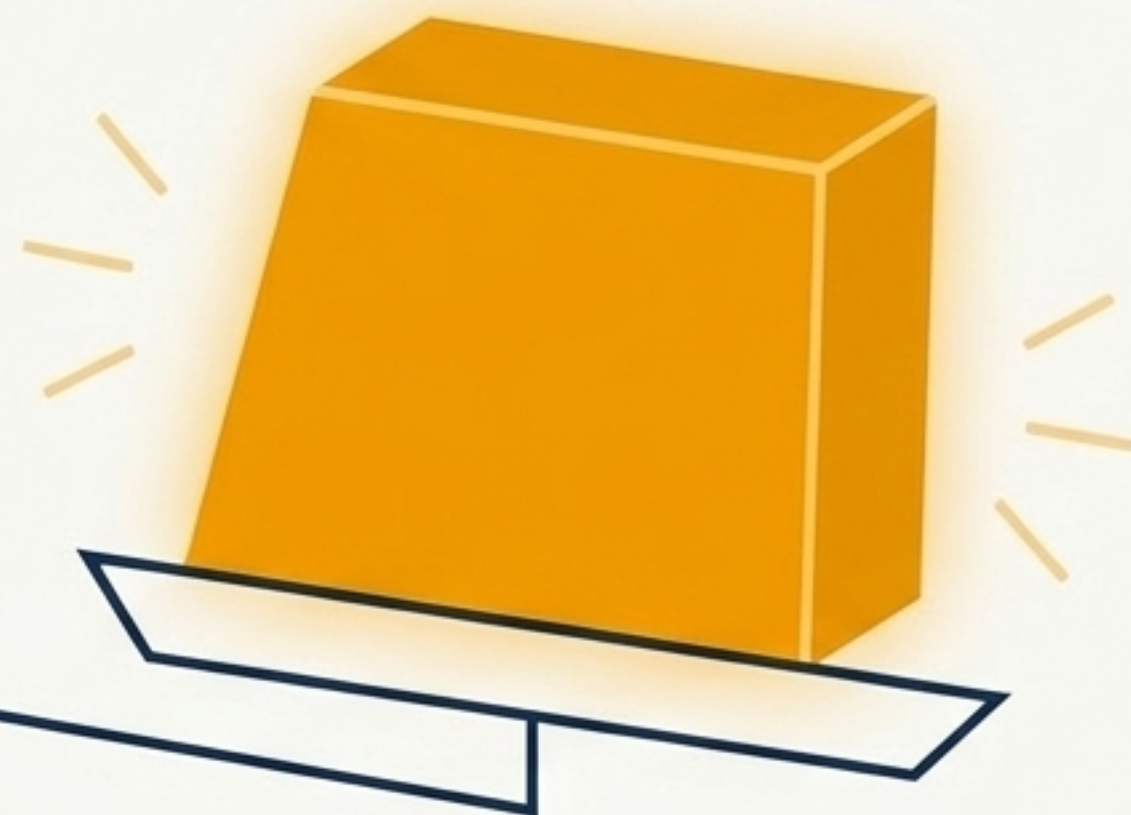
ところが、
ある条件が加わると
人は動く。

**「この課題に取り組まなければ、
料金が上がる」**

突然、やり方を変える。
慣れたプレーをあっさりと捨てる。
今まで動かなかった自分が、
お金の話で動いてしまう痛烈な瞬間。



【上達のための助言】



【金銭的な不利益】

厳しい現実：自分を伸ばそうとしてくれた「尊敬する人」の言葉より、
財布の痛みのほうが、自分を動かす力を持っていた。

相手のすごさを
認めること

この二つの間には、とてつもなく
「大きな隔たり」がある。

その人の言葉で
自分を変えよう
とすること

プレーを観察する

課題を探す

言葉を選ぶ



【助言】

それを「分かりました」の一言で受け取り、何も試さず終える。

失っているのは、
コーチの言葉ではない。
「自分の上達の手機合」なのだ。



【尊敬している「つもり」】

「すごいコーチだ」と
ただ称賛する

気持ちよく決まる
慣れたプレーを続ける

うまくいかないと
黙って元のやり方に戻る

VS

【本当に「尊敬している」】

自分の考えと違う助言にも、
学ぶ価値があると向き合う

VS

すぐにできなくても、
まず**試す**

VS

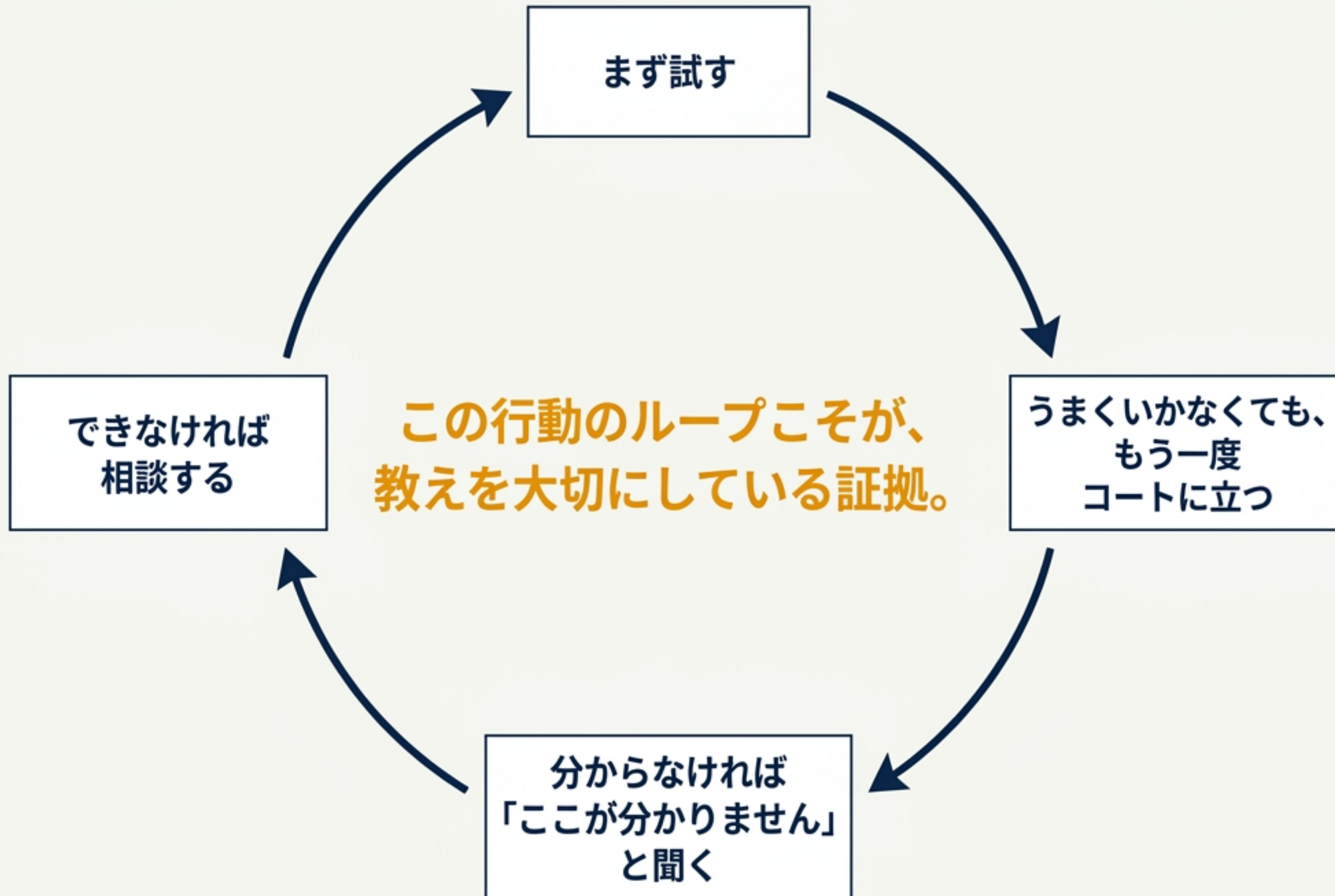
「ここが分かりません」と
聞き、**相談**する



尊敬とは、教わった瞬間に
完璧にできることではない。
何でも黙って従うことでもない。



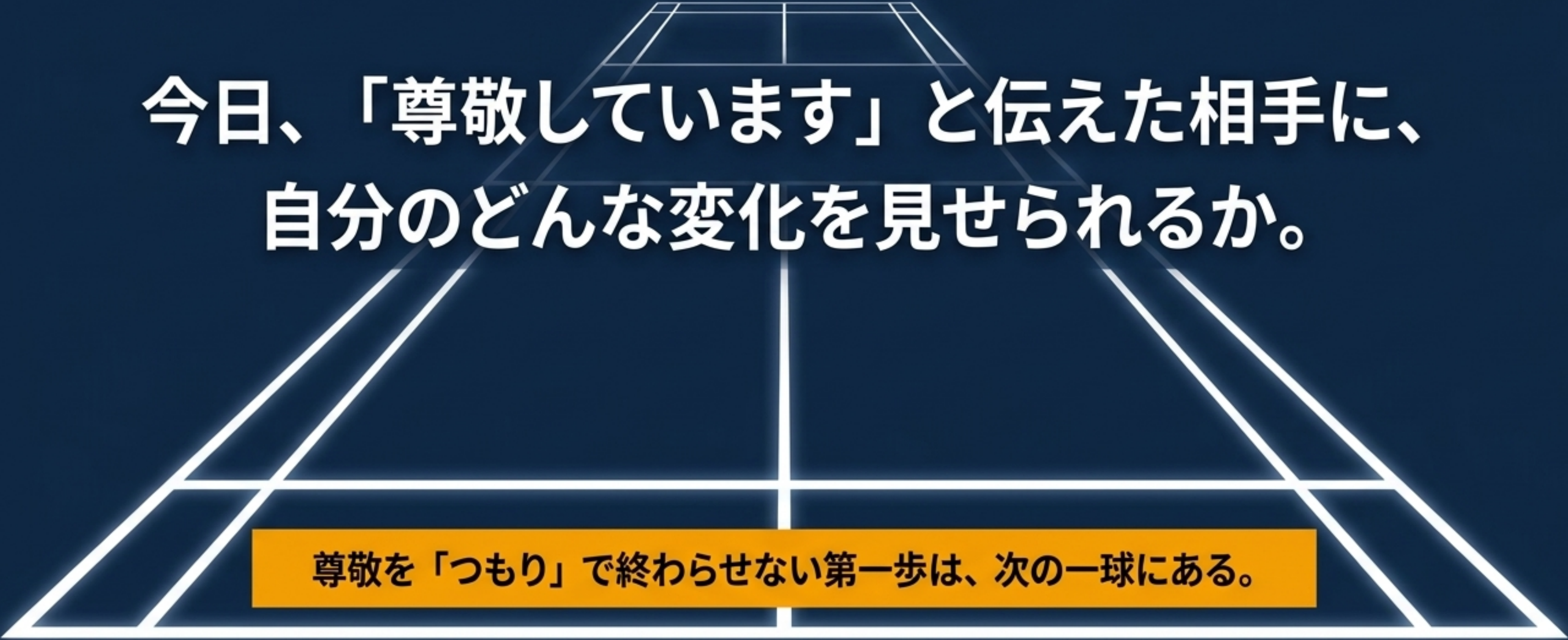
自分の考えと違う助言にも向き合う姿勢。
言葉だけでは伝わらない敬意は、
その「過程」に宿る。



財布が痛むまで
動かないのか。

上達につながる
言葉だから動くのか。

尊敬の重みは、心の中ではなく、選択に表れる。



今日、「尊敬しています」と伝えた相手に、
自分のどんな変化を見せられるか。

尊敬を「つもり」で終わらせない第一歩は、次の一球にある。